

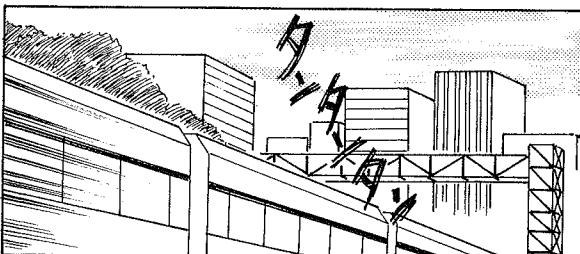
第1章

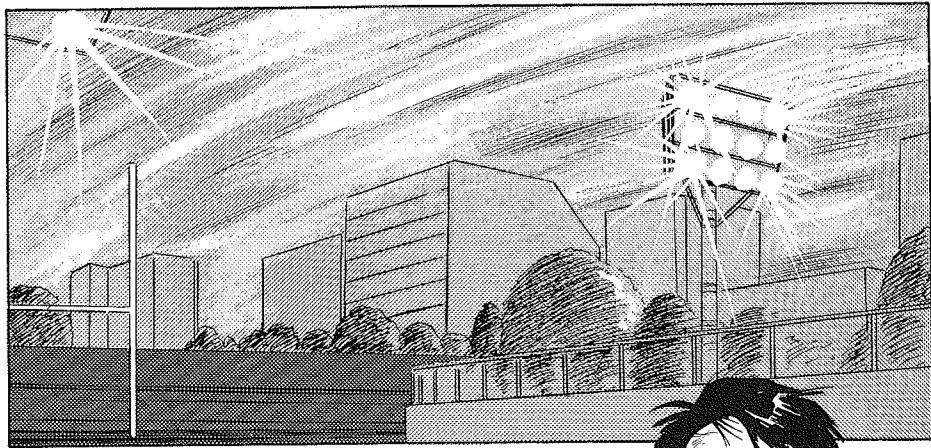
鉱工業生産指数

～統計から景気動向を読む～



景氣後退色強ま 企業マインド冷えこむ!







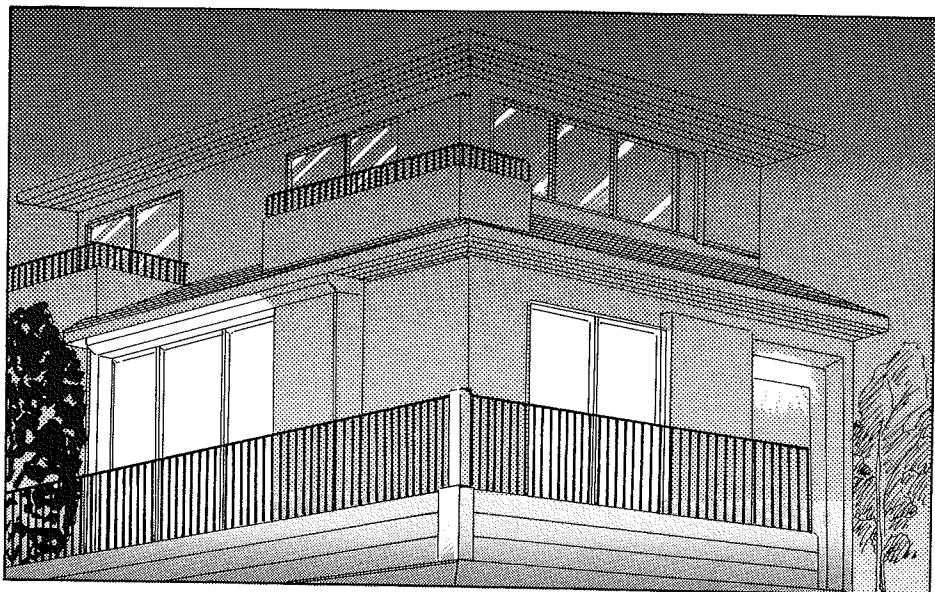


西川電器株式会社
東京本社
社員用スポーツ施設













その前には
生産動態統計調査を
知らないと
いけないな

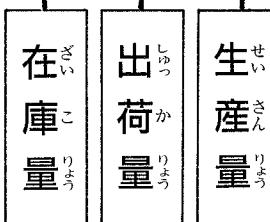
生産動態統計調査とは……
鉱工業生産の動きを明らかにするために

工業品および鉱産物を
生産加工する事業所または企業を対象に……

毎月実施していること
調査のことなど

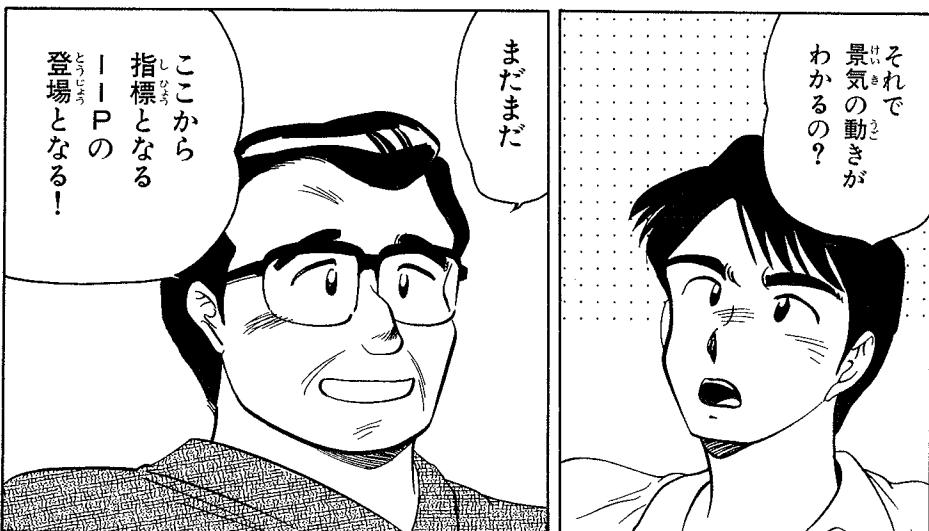
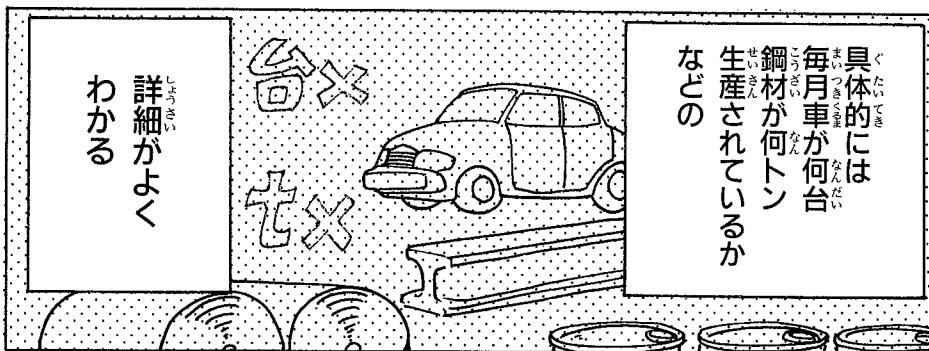
その生産量を調べているんだ

約3100品目



その内容は
鉱工業製品のうち
約三百品目について





鉱工業生産指數
のことで――

Index Numbers of Industrial Production

アイアイピー
とは……



約3100品目

481品目^{他省庁からのデータを含め}
522品目

生産・出荷・在庫指數
とも同じであり
中から
主要四八一品目を選び
それに他省庁のものを
四一品目加え――

それらを
指數化し
積み上げた
ものを
いふんだ

何？ 指
し
す
う
つ
て



指数とは

だい 台 トン こ個 まい 枚 ダース リットル

単位の違う五二二品目を
同じベースにして
ひとつの数字の中に
まとめるために……

基準年
(現在は昭和六十年)

100

とした比率を
ウエイトで
総合したもの
を言う！

付加価値額
ウエイトを
用いる！！

付加価値額ウエイト

この場合の
ウエイトとは



せいさん がく 生産額

附加価値額とは

生産活動を
通じて新しく
生まれた金額で表した
もの

原材料費

電力料金

機械設備の消耗分

などなど

その企業の
儲けにあたるもの

つまりは生産額から
原燃料費や機械設備の
消耗分を

引いたもの

これ

なるほど

ここから
おまえの給料とか
設備投資のための資金
とか株の配当が
生まれるという
ワケだ



経済全体の動きを見る上で最も非常に重要な指標である

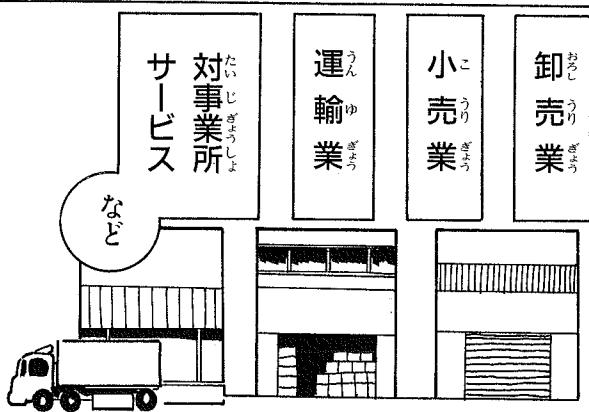
「GDPは生産活動の動きにとどまらず景気に対して敏感であるので

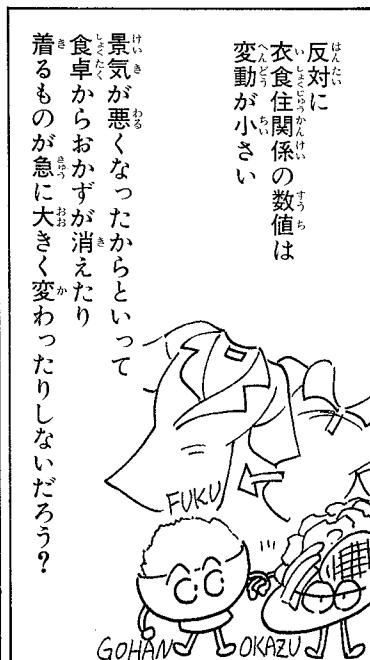
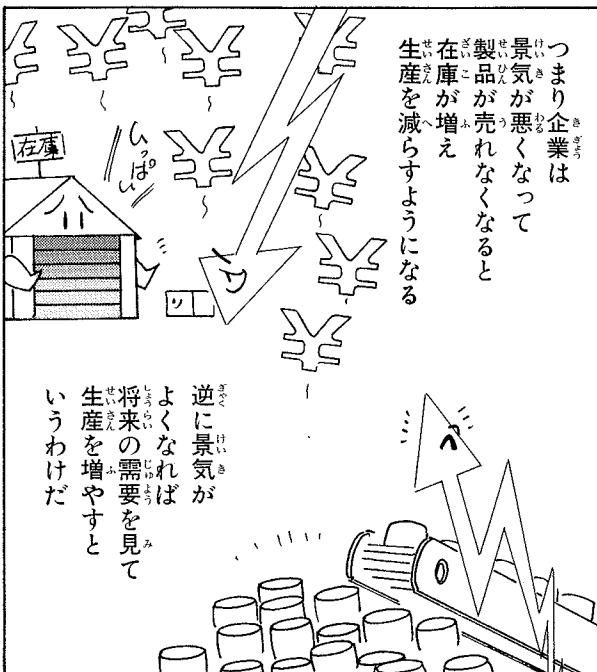
GNP の約40%

その理由のひとつには、このない国内の総生産(GNP)に、鉱工業生産が占める約四割があり――



GNP全体の動きに与える影響が非常に大きい

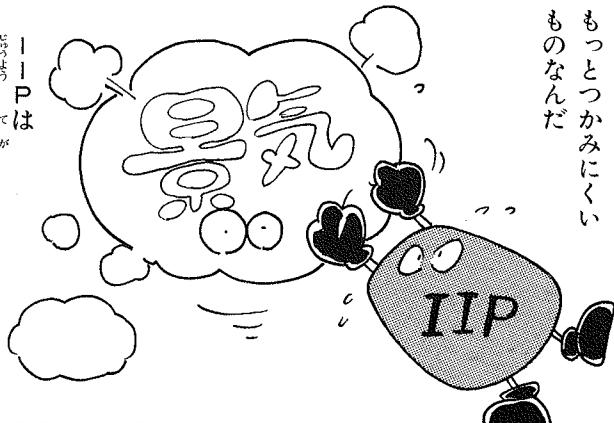






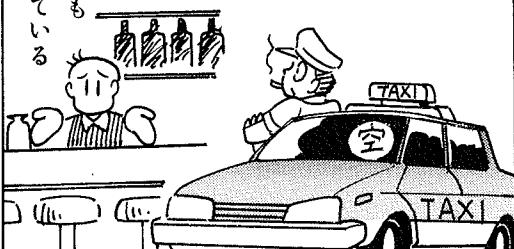
しかし景気というの
もつとつかみにくい
ものなんだ

IIPは
重要な手掛かりになるが
それだけで十分とは
言えない
ほかの統計調査の結果も
もちろん重要だ
また不景気になると……



そういうった
数字には
表れない変化も
重要と言われている

飲み屋が
ヒマになる
とか……



特に女性の服の色が
地味になるとか



両方から
判断する
のが
重要だね

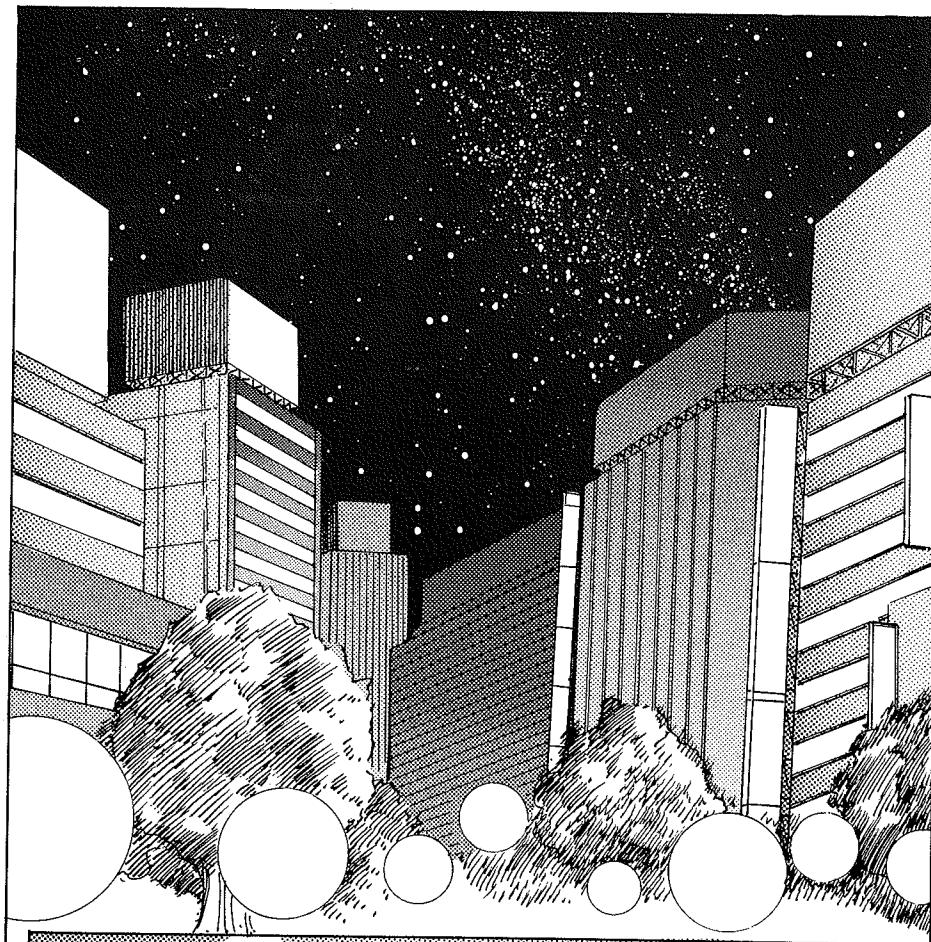
そうだね

どうだ?
最近繁華街でも
空車が
つかまえやすいとか
意外と首都高が
すいてるとか
聞くだろう?









鉱工業指數

鉱工業指數は、我が国の鉱業と製造工業の生産、出荷、在庫に関連する諸活動を体系的にとらえたもので、景気動向の観察をはじめ様々な経済分析のための有効な手段として各方面に広く利用されています。

以下では、これらの指標の中で最も重要な生産指標（略称：IIP）を中心に説明していきます。

まず、鉱工業生産指標を説明する前に、指標とはどういうものであるか簡単にふれてみるとします。

I. 指標について

指標とは、同じ種類の統計数値の大小関係を時間的または場所的に比較するために、2つの数量の一方を基準として他方の大きさを比率（百分比）の形で計算したものです。このとき比較の標準となる数量を基準量といい、比較の基準となる時点を基準時といいます。

個々の品目（同一のもの）を比較する（個別指標）ことはもちろん、本文に出てきたように自動車、鋼材といったいろいろな品目をウェイトで加重平均して総合化することにより、一つの数字に表わすこと（総合指標）もできます。

総合指標の仕組みについて簡単に説明しましょう。

総合指標の作成には、

- ①どのように基準を決めるのか
- ②その基準に従い、いろいろな単位の品目を同じレベルでどのように評価するか
といった問題があります。

①については、通常1か月、1年等の長さを持つ期間を選び、その期間の数値を100として表わします。（現在の鉱工業生産指標などの指標は昭和60年を基準年としており、5年毎に基準年を更新しています。）

②については、各品目の金額構成比（ウェイト）を考慮して、単位の異なる数量の伸びを評価するといった加重平均の方法を用いています。

生産指標の場合は、生産額や付加価値額に従って、各品目のウェイトを計算します。（鉱工業生産指標は、付加価値額ウェイト、生産額ウェイトの2種類の生産指標を作成しており、通常は付加価値額ウェイト生産指標が用いられています。すなわち、昭和60年の1年間で代表する品目（522品目）で産み出した付加価値額を分母にして、その個別の品目の付加価値額を分子にして算出されたものがその品目のウェイトとなります。）

* 付加価値額とは

生産活動を通じて新しく産み出された価値を金額で表したもので、具体的には、生産額から生産に要した費用（原材料費、電力などの燃料費、機械設備の消耗分、税金分など）を差引いた金額となります。



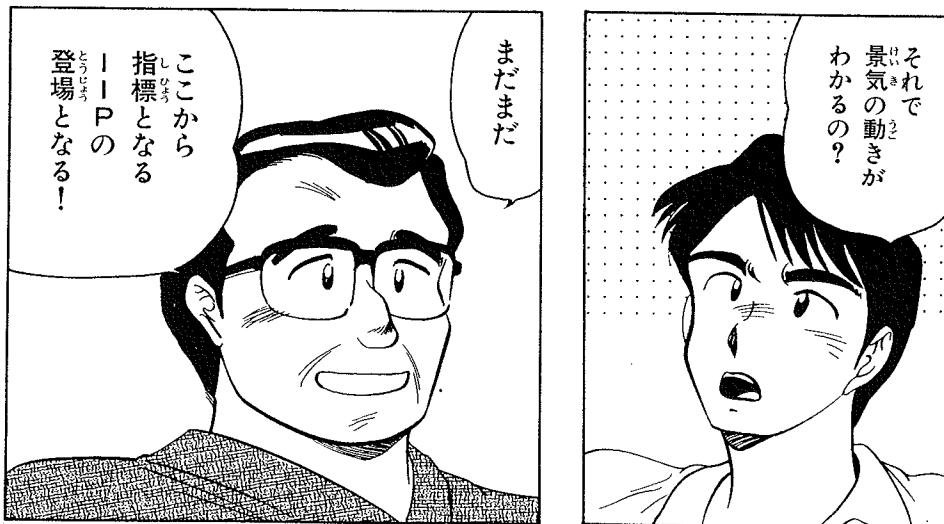
II. 鉱工業生産指標について

さて、ここで I の指標についての基本的な勉強をもとに本文に出てきた鉱工業生産指標（I I P = Index numbers of Industrial Production）に話を進めましょう。

既に説明しましたが、鉱工業に関わる品目については、生産動態統計調査で約3,100品目を毎月調査しています。我が国の生産活動全体の動きや水準を表すために生産動態統計調査以外の他省庁等の調査も加え、そのうち主要な522品目を選び、それを総合化することによって鉱工業生産指標を作成、公表しています。

また、月々の動きをより正確に比較するために、気候による要因（エアコンなどは夏に向けて春先によく生産される、ビールや清涼飲料は夏の需要に向けて生産されるなど）や制度的な要因（6月や12月のボーナス、中元やお歳暮、企業の決算期など）でその月々の数値が変動することをあらかじめ調整した季節調整済指数も併せて作成、公表しています。

鉱工業生産指標は生産活動のみならず、経済全体の動きをみるうえでも非常に注目される指標となっています。



それは、

①国内の総生産に占めるウエイトが約4割あり、また、卸売業・小売業、運輸業、生産活動に結びついたサービス業などを考慮するとGNP全体の動きに対する影響力が非常に大きい。

②鉱工業生産は景気が悪くなっていると在庫が増えると生産を減らし、景気が良くなれば、将来の需要を見越して生産を増やすなど景気の動きに敏感であること。

③翌月の下旬には速報が公表されるなど発表が早いこと。などが理由です。

鉱工業についての指標は生産だけではありません。出荷や在庫などについても指標として発表しています。

①生産指標（付加価値額ウエイト）

⑤生産者製品在庫率指標

⑨原材料在庫指標

②生産指標（生産額ウエイト）

⑥稼働率指標

⑩原材料在庫率指標

③生産者出荷指標

⑦生産能力指標

⑪販売業者在庫指標

④生産者製品在庫指標

⑧原材料消費指標

⑫製造工業生産予測指標

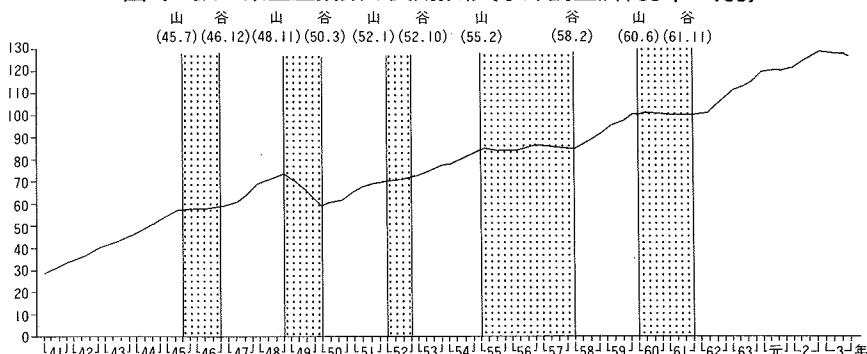
III. 鉱工業指標でみる景気の動向

1. 長期的にみた鉱工業生産水準の推移

鉱工業生産は、一進一退を繰り返しながらも順調に拡大してきています。(図1参照)まず、40年以降の「いざなぎ景気」を受けて、45年に至るまで力強く息の長い成長をしてきましたことがわかります。その後、二度の石油危機の影響を受け、49~50年に大きな水準の低下、また、55~57年頃には景気後退期にみられる生産の横ばいが続きました。60年にはプラザ合意後の急激な円高により、再度、横ばいの状況となりました。

鉱工業生産は、これらの数々の外的インパクトを受けながらも、その間においては順調に上昇し、48年の第1次石油危機直前に比べ、現在では、およそ1.8倍の水準に至っています。

図1 鉱工業生産指数の長期推移(季節調整済、60年=100)



2. 最近の推移

近年の鉱工業生産をみると、円高不況後の昭和62年1~3月期に底を打ってから、平成2年末まで内需を中心とする順調な拡大を示した後、一進一退で推移しています。3年に入ってきたら動きについてみると、軽・小型乗用車などの乗用車関連品目の減少、企業による設備投資の鈍化、住宅を中心とする建設投資の落ち込みなどで、前年比2.1%と昭和61年以来の低い伸びにとどまりました。(表1参照)

前年比 平成元年	6.1%
2年	4.6%

表1 鉱工業生産動向
(前年(期)比、%)

	3年	3年			
		1~3	4~6	7~9	10~12
生産	2.1	0.0	▲0.5	0.1	▲1.2
最終需要財 生産	1.4	▲0.7	▲0.7	0.3	▲0.8
	2.9	0.7	▲0.4	▲0.1	▲1.7
出荷	1.7	▲0.1	▲0.4	0.2	▲1.1
在庫	13.1	3.5	2.6	1.9	4.2
在庫率	5.6	1.5	3.9	2.4	3.6



生産動態統計調査

鉱工業生産の月々の動きを明らかにするため、約3,100品目について、その生産量、出荷量、在庫量を調べています。必要に応じ、原材料使用量、従業者数、機械設備などについても調査しています。昭和23年より、毎月現在に至るまで調査を行っており、我が国の産業統計の中でも、最も基本となる調査です。

調査の方法としては、統計調査員が配布・回収するもの（第4章参照）と郵送によるものがあり、都道府県経由のほか、地方通産局経由、通産省本省直送と様々です。

調査の結果については、翌月の下旬に速報、翌々月の中旬に確報が公表されています。

品目例：(概数)

品目名	平成3年	平成2年	昭和60年	昭和50年	昭和40年
粗 鋼	1億 1000万トン	1億 1000万トン	1億 500万トン	1億 200万トン	4100万トン
自動車 (四輪車)	1320万台	1350万台	1230万台	690万台	190万台
エアコン	2000万台	1810万台	1200万台	330万台	—
半導体 集積回路	170億個	155億個	90億個	3億個	—

